



TITLE:

京大東アジアセンターニューズレター 第681号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセンターニューズレター 第681号. 京大東アジアセンターニューズレター 2017, 681: 1-7

ISSUE DATE:

2017-07-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/226981>

RIGHT:

2017 年 7 月 31 日発行 第 681 号

CONTENTS

バングラデシュ情報検証：パドマ橋建設工事の進捗状況.....	2
【中国経済最新統計】	7

京都大学 経済学研究科 東アジア経済研究センター (旧上海センター)
Center for East Asian Economic Studies, Graduate School of Economics, Kyoto university

Home 事業概要 組織構成 活動状況 最新情報 会員募集 お問い合わせ

最新情報

- 2014.10.07 【イベント】 「中国経済研究会」のお知らせ
- 2014.09.11 【イベント】 アジア自動車シンポジウムのお知らせ
- 2014.08.12 【お知らせ】 センター協会の解散と支援会への移行について
- 2014.07.14 【イベント】 第10回 アジア中吉車流通研究会
- 2014.07.14 【イベント】 中国経済研究会 (2014年度第3回)

more

News Letter

Vol. 539

2014.10.06

最新号

バックナンバー

Go more

研究会 シンポジウム・講演会・セミナー 会社説明会 会員募集 寄付のお願い

アクセス | リンク集 | プライバシーポリシー | サイトマップ

Copyright (C) 京都大学経済学研究科「京大東アジア経済研究センター」, All Rights Reserved.

バングラデシュ情報検証：パドマ橋建設工事の進捗状況

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

1. 調査目的

私の今回のパドマ橋の調査目的は二つであった。一つは、このパドマ橋はバングラデシュ最大のパドマ川に架けられるもので、バングラデシュ最大のインフラ工事と呼ばれ、完成すれば経済発展の遅れた南西地域とダッカを直接結ぶことになり、バングラデシュ経済に大きな効果をもたらす。それだけでなく、インド西ベンガルのコルカタへ駆け抜けるアジアハイウェイの貫通に大きく前進する。したがってこ



のパドマ橋の進捗状況を見ることで、バングラデシュ経済の発展やハシナ政権の安定性を占うことができると思ったからである。二つ目には、この工事はいわくつきもので、世界銀行やアジア開発銀行、JICA などが資金援助することが決まっていたが、6年ほど前に汚職が指摘され、頓挫したものである。（この直後、私は現地を視察し、レポートを発信した。文末に掲載しておくので、参照していただきたい）。ところが2015年末、ハシナ首相はこの工事を自前資金で行うと発表し、それを中国企業が請け負った。当時は、2017年末か2018年初めには完成すると発表されていた。この工事の進捗状況を見てみれば、中国の世界におけるインフラ整備の実行力の一端を判定できると思ったからである。

調査に赴くに当たって、私は、この工事が、「**まったく進んでいないか、まだ始まったばかり**」に違いないという仮説を立てて臨んだ。そしてそれは、見事に的中した。私がその仮説を立てた根拠については、工事の現場検証の後に、

記しておく。

2. 現場検証記

2015年末、手元に下記のような情報が入ってきた。頓挫中のパドマ橋建設工事を中国企業が受注したというのである。私はこの情報に接して、2年後の2017年の適当な時期に、ぜひ、この工事の進捗状況を見に行きたいと思った。

パドマ橋の建設工事、中国の武漢企業の手で始まる

2015年12月14日、中国建設土木最大手の中国中鉄グループの橋建設会社、中鉄大橋局集団（湖北省武漢市）が総額30億米ドルで受注したバングラデシュ・パドマ橋の建設工事が始まった。資金は全額バングラデシュ政府が負担し、4年以内に建設する。橋の主体部分が6150メートル、幅21.5メートル。橋脚は42基のうち40基が水中につくられる。中国企業が海外で建設を受注した橋としては最大となる。このほか、中国電力建設（北京市）がパドマ川の全長13キロの河道整備事業を請け負った。

今回(2017年7月14日)、ダッカ中心部から西へ2時間半ほど



車で走って、 《 左岸の建設現場 》

《 右岸の建設現場 》

建設工事現場の調査を行った。パドマ橋の建設工事現場では、両岸に大きなものものしい建設用の足場が組まれているだけで、川の中央部はまったくの手つかずであった。両岸にも、橋脚らしきものの姿はなく、それに向けての取り付け道路もなかった。また川岸にも、建設用資材が山積みになっているという光景もなく、ダンプなどの往来も見られなかった。ただし左岸の足場には、「中国大橋局」や「武漢」という漢字が記されていたので、これが上述の中国企業の受注したものであることがわかった。念のため、スピードボートに乗り、両岸と川の中央を丹念に見て回ったが、どこにも橋脚の形を見つけ出すことはできなかった。私は、今までに、各国で多くの橋の建設現場を見てきたが、先ず取り付け道路の橋脚ができ、その後、両岸から橋脚が立てられ始めるという順序だった。それでもそこから完成まで、まだ相当の年数がかかる。パドマ橋は、

まだ取り付け道路も橋脚も形を現しておらず、これを見て私は、「この分では、完成までにあと5年はかかる。工事は始まったばかり。場合によってはまた頓挫するかもしれない」と、思った。

ただし、ダッカからこの地点までの道路の拡幅工事は、半分ほど出来上がっており、おそらく来年中には完成するだろうと思われた。それはそれで、この川を今まで通りフェリーで渡る人や企業にとっても、たいへん好都合なことであり、バングラデシュ経済の発展に大きく貢献すると考える。

今回の調査で、もっとも驚いたのは、この道路沿いに多くの野立て看板が林立していたことであった。このような看板は、前はまったくなかったと記憶しており、不思議に思ったので聞いてみると、それはデベロッパーの野立て看板であるという。すでに道路沿いの土地がほとんどデベロッパーに買い占められており、パドマ橋完成後の住宅や商業施設などの建設の構想も生まれてきているという。ここに大きな金が暗躍しているのである。このような光景を見ると、私はこれがパドマ橋建設の真の理由ではないかと思ってしまう。



《 林立する野立て看板 》

3. 私が「工事遅延」を推測した根拠

私が事前に、「工事遅延」を予測したのには、二つの根拠がある。まず一つは、バングラデシュの資金事情である。ハシナ首相の自前資金での建設の決断の背景には、バングラデシュの外貨準備高が200億ドルを越えたという事実があり、それにハシナ首相が自信を持ったからであると言われてきた。しかし外貨準備高というのは、その国の政府が、実際にすぐに使うことができる金額を示すわけではない（このことは、別の機会に詳述する）。もちろんバングラデシュには海外出稼ぎ者から多額の送金があるが、これも個人のもので、政府が無制限に使えるものではない。私は外貨準備高を当てにした政府の資金は、おそらく潤沢ではなく、資金不足に陥るだろうと見ていたからである。

次に私が注目していたのは、請け負ったのが中国企業であるという事実である。中国企業は世界各国で多くのインフラ事業を請け負っているが、本体企業の経営状況は決して順調ではない。とくに国有企業の場合、赤字経営が多い。したがって本体企業の経営が厳しくなったとき、請け負った事業も中途半端な

ものになる可能性が大きい。それを中国政府が代わって支えるということも、現在の中国政府の懷事情を考えれば想定できない(中国政府の資金不足についても、別の機会に詳述)。「一帯一路」など、中国の打ち上げる花火は華々しいが、実際に、中国の世界各地におけるインフラ整備は滞っているものが多い。この点をジャーナリストや学者が、しっかり追跡調査して、その実情を発信すべきである。パドマ橋の建設工事も、現実にかなり遅延している。バングラデシュ政府が資金不足なのならば、これは中国政府が、バングラデシュ政府に恩を売る絶好の機会なのだが、それもできないだろうというのが、二つ目の根拠である。

バングラデシュ短信：2012年 8月下旬

14. SEP. 12

小島正憲

1. パドマブリッジ 現地視察報告

バングラデシュでは、世界銀行がパドマブリッジ建設プロジェクトへの融資計画を断念したことについて、社会に大きな落胆の声が広がっている。

この橋は、首都ダッカの南西約40km地点を流れているパドマ川に架けられる予定であり、全長6.15km、両端の取り付け道路が合計4kmとされている。架橋後は、バングラデシュ第3の都市：クルナ市と直結し、第2の港のモングラとも結ばれる。またバングラデシュの1/4の人が住んでいる南西地域が首都圏に組み込まれ、大幅な生活水準アップが見込まれる。さらにこの橋はアジアハイウェイ1号線上にあり、必要不可欠でもある。

9/05, 私はダッカ市内から往復7時間をかけて、このパドマブリッジ建設予定現場に行ってみた。パドマ川はたしかに大河であり、対岸はうっすらとしか見えなかった。中国の長江にたとえるならば、南京近辺の川幅に相当すると思われる。現在は、随時、カーフェリーや渡し船が往復していたが、片道で3時間ほどかかるということだった。船着き場から50mほどの地点に、パドマブリッジ建設事務所があったので、そこに入ってみたが、4~5人のバングラデシュ人が暇そうにしていた



けで、事務らしきものはなにもしていない様子だった。チーフらしき人に話を聞いてみたが、新聞記事以上のことは聞き出せなかった。ただし彼は窓から外を指し示し、すでにこの周辺の土地は政府の手によってすべて買収済みで、着工待ちという状態だと話してくれた。なお、壁には完成予想図が掲げてあり、その橋が上下2層になっていたの、聞いてみると、上が道路、下が鉄道、その他ガス輸送管、光ファイバー通信ケーブルなどを通す予定だという。それがこの橋が多目的ブリッジと呼ばれる意味であった。

道路際に、ハシナ首相の名前を刻み込んだパドマブリッジ建設計画のモニュメントがあった。ハシナ首相の出身地は対岸であり、そこが地盤であるという。この橋の着工がハシナ首相の任期中の悲願でもあるらしい。

※パドマブリッジに関する最近の動き

8/27、政府関係者は、「世界銀行（WB）はパドマブリッジプロジェクトに対する資金調達の見直しについて、いまだに肯定的な回答を示していない。パドマブリッジプロジェクトのため世界銀行からの1.2億ドルのローンについて未だ明るいニュースをもらっていない」と語った。また世界銀行の南アジア専務取締役のMN・パラザドは、キャンセルされたパドマブリッジプロジェクト融資の決定を見直すためにワシントンを基盤にするさまざまな貸し手を説得する使命を与えられた。世界銀行の条件により、スキャンダルが起きた当時情報通信大臣であったスエド・アブール・ホセインは引退、元ブリッジ書記官であったモシャラフ・ホセイン・ブイヤンが休暇をとっている。財務大臣 AMA ムヒスは、「世界銀行との話は今も続いている」と記者会見で改めて声明した。また「世界銀行からのブリッジプロジェクトに対する資金調達について、希望を持っているのか」という記者の質問について、ムヒスはコメントすることを拒否し、「我々は失われた尊厳を取り戻す助けになるので、世界銀行にブリッジプロジェクトの資金をサポートしてほしいだけである」と語った。

以上

【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億 ^{ドル})	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012 年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013 年	7.7	9.7	11.4	2.6	19.4	2590	7.8	7.2	▲8.6	5.3	13.6	14.1
2014 年	7.4	8.3	12.0	2.0	15.2	3824	6.1	0.4	4.41	14.2	12.2	13.6
2015 年	6.9	5.9	10.7	1.4	9.7	6024	-9.8	-14.4	11.0	0.8	11.9	15.0
5 月		6.1	10.1	1.2	9.9	595	-2.4	-17.7	-14.0	8.1	10.6	14.3
6 月	7.0	6.8	10.6	1.4	11.6	465	2.8	-6.3	4.6	1.1	10.2	14.4
7 月		6.0	10.5	1.6	9.9	430	-8.4	-8.2	9.6	5.2	13.3	15.7
8 月		6.1	10.8	2.0	9.1	602	-5.6	-13.9	23.9	20.9	13.3	15.7
9 月	6.9	5.7	10.9	1.6	6.8	603	-3.8	-20.5	5.2	6.1	13.1	15.8
10 月		5.6	11.0	1.3	9.3	616	-7.0	-19.0	2.5	2.9	13.5	15.6
11 月		6.2	11.2	1.5	10.8	541	-7.2	-9.2	27.7	0.0	13.7	15.3
12 月	6.8	5.9	11.1	1.6	6.8	594	-1.7	-7.6	17.2	-45.1	13.3	15.0
2016 年												
1 月			10.3	1.8	18.0	633	-11.5	-18.8	14.1	-2.1	14.0	15.2
2 月			10.2	2.3		326	-25.4	-13.8	-11.3	-1.3	13.3	14.7
3 月	6.7	6.8	10.5	2.3	11.2	299	11.2	-7.4	26.1	4.0	13.4	14.7
4 月		6.0	10.1	2.3	10.1	456	-2.0	-10.5	21.4	2.9	12.8	14.4
5 月		6.0	10.0	2.0	7.4	500	-4.7	-0.1	43.6	-4.8	11.8	14.4
6 月	6.7	6.2	10.6	1.9	7.3	479	-6.1	-9.0	8.5	4.4	11.8	14.3
7 月		6.0	10.2	1.8	3.9	502	-6.4	-12.9	-3.8	-6.2	10.2	12.9
8 月		6.3	10.6	1.3	8.2	520	-3.2	1.4	13.2	0.5	11.4	13.0
9 月	6.7	6.1	10.7	1.9	9.0	420	-10.2	-1.9	27.9	-3.6	11.5	13.0
10 月		6.1	10.0	2.1	8.8	488	-7.4	-1.3	-36.9	0.4	11.6	13.1
11 月		6.2	10.8	2.3	8.8	442	-1.5	4.6	-32.4	-4.6	11.4	13.1
12 月	6.8	6.0	10.9	2.1	6.5	407	-6.4	2.6	21.1	-627.7	11.3	13.5
1 月				2.5	16.1	513	3.1	15.4	5.4	-6.2	11.3	12.6
2 月				0.8		-91	-4.8	38.1	33.3	-242.1	11.1	13.0
3 月	6.9	7.6	10.9	0.9	9.5	239	12.3	19.6	-1.4	1.6	10.6	12.4
4 月		6.5	10.7	1.2	8.1	380	4.2	11.6	42.7	-9.8	10.5	12.9
5 月		6.5	10.7	1.5	7.8	408	5.5	14.6	-5.4	-8.7	9.6	12.9
6 月	6.9	7.6	11.0	1.5	8.8	4289	9.1	16.3	14.3	-2.8	9.4	12.9

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、() 内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。